

News Letter



Vol.1

菅原工務店株式会社

〒606-8427
京都市左京区鹿ヶ谷法然院西町 25-1
TEL 075-751-1212
FAX 075-751-1021

ホームページリニューアル

菅原工務店株式会社



あれから三年 『東北被災地に行く』

気仙沼 本浜町
2011年 7月17日 撮影



内陸 1.0 キロの地点でも三階床部を越える津波

■ 京都に昭和三十年頃、大工として根付いた弊社創業者の生まれ故郷は岩手県の山深い村落でありました。終戦を岩手で迎え尋常小学校を卒業後大工になり、その後上京し東京で腕を磨き、活躍の新天地を求め当時は伝統や刷新さの入り混じる、職人が技術を發揮するには最高の環境である京都の地に到着。ですから、東北には縁もゆかりもあるのです。親戚縁者の多くが、岩手県と宮城県におり。2011年3月11日も多大な被害に見舞われました。とりわけ被害が大きかったのが、気仙沼と釜石にある親類で。気仙沼の親類に至っては、幸い、命のみ助かったものの住居など生活拠点は全て津波で流されてしまいました。

筆者は震災直後、とあえずの生活の足しになればと衣類や布団日持ちのする食料などを積み込み、現地へと親戚の安否



様々な方向からの曲げ・せん断・引張り・圧縮、材料強度を越える負荷に耐える事は出来なかった。

の確認と現地への興味を不謹慎にも抱き向かいました。そこには、幼少の頃より親しんだ街の姿は変わり果てた惨状と人の悲しみや虚無感が広がっていました。



要のアンカーボルトなども例外では無かった。



街は機能を失った



311より3ヶ月後
気丈に健在の叔父

このGWに3年ぶりに、祖母や祖父などの三回忌など法事に参加すべく東北へと里帰りいたしました。その際、震災当時この目に収めたあの惨状がどう変わっているのかと、やはり興味を抱き。当時は数回に分け気仙沼・陸前高田・大船渡・釜石と巡りましたが。今回は時間も取れませんでしたので。気仙沼を訪れました。

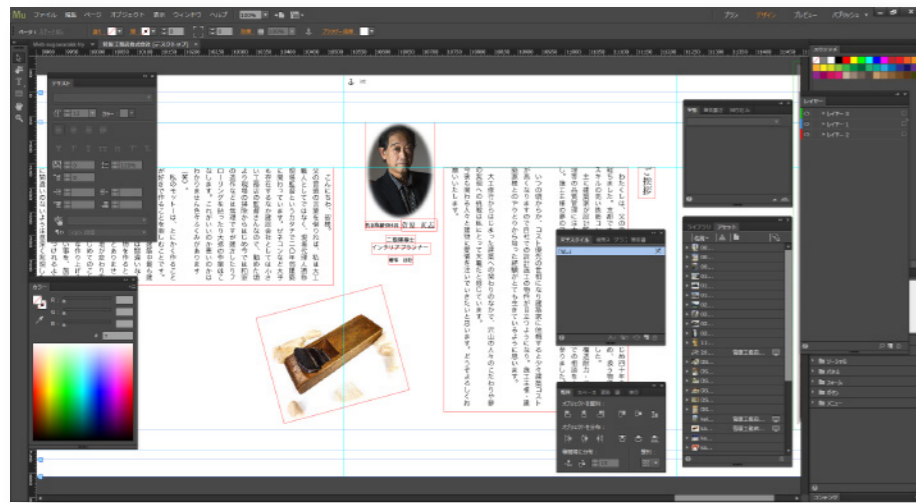
『十年ぶりの念願のリニューアル』

■ 弊社社長は、早くからパソコンで図面を描くCADと言われるシステムも並みの設計事務所よりも早く導入したり、建築現場では手などが汚れ液晶のタッチの反応が悪く使いにくいスマートフォンなどもいち早く導入してみたりと。随分な新しいも好きであります。

十年以上前、企業がこぞって企業名:COOなどの自社の名前を入れ込んだドメインと言われるホームページのアドレスを躍起になって買い込んでいた頃。弊社でも sugawara.oc.to という社名入りのドメインを購入して社長自らがホームページビルダーというホームページ作成ソフトで自社サイトを構築しアップしました。システムエンジニアでもなく知識がほとんど無いなかよく頑張ったことだと感服したものです。アップ後は画像を数枚更新する程度で、ほぼ放ったらかし状態で。ホームページを見るたび更新できていない辛さで胸が詰まる思いでありました。聞けばホームページ制作会社に依頼し作ってもらえば四十万円が必要だそうで、大きな企業になると何百万の投資になるそうです。時代はリストラの嵐を経験しダウンサイジング(適度な規模に縮小しながらも効率よく運営すること)の時代だそこで。弊社では、それを拡大解釈しながら。再度外注には頼らず自社サイトをアップする試みを実施いたしました。

以前社長がサイトを構築した頃は、デザイン性や機能を自由に表現するにはサイト作成ソフトがまだまだ未成熟でありましたが。時代は進み印刷物などをデザインレイアウトするソフトウェアを開発する Adobe という会社から Muse という直感的に使え、デザイン性を以前よりもずっと良く、簡単に表現出来るソフトが開発されました。この度はその Muse というソフトのチカラを借りてサイト構築いたしました。

この Muse を使うと従来 HTML コードという、サイトを構築する際に必要なプログラム言語を駆使する必要がなく。画面内で配置したい画像や文字をレイアウトするだけで自動的にソフトがプログラム言語に変換してくれます。※注意…専門家によるとまだまだ問題も多いソフトで今後メインストリームになり得るソフトでもないそうなので、導入の検討には無料体験版が有りますので慎重に精査されてください。



Muse 作業画面 コードなしでデザインが進行する。

菅原工務店株式会社



今回リニューアルされた、sugawara.oc.to 縦書きを駆使し横スクロールのページ構成となる。

企業の訴求などにはSEO対策というネット上での検索にいかにつかかると、多くの人に見てもらえるかという部分が重要になりますが、今回はそういう部分をあっさり削り、変わった作りのページかつ弊社内でも実現可能なデザインを目指し。一般的には横書き縦スクロールが採用されるなか。縦書き横スクロールという見る人が「ちょっと見づらいね」という言葉が聞こえてきそうな形態を採用。タネを明かせば Adobe が提供している Muse のネット講座から頂いたアンチヨコでもあります。

画像や動画また弊社の活動によるコンテンツはまだまだ揃っていませんが。以前の様に放置が進まないように更新していきたいと思っております。皆様今後ともよろしくお願いいたします。

311 変遷

2011年7月



地震の影響で
約1.3m地盤が沈下

復興の足場として
すぐに作業道が
約2m埋め立てられた

現在 (2015年5月)



港湾設備に
目に見えた
進展はなし

水産加工団地予定地として、
行政が買い上げを行い
土地も更に2mかさ上げされた。

2011年7月



現在 (2015年5月)



■ここ気仙沼港は震災以前は400名強の漁協の組合員が在籍し、近海モノのカツオやマグロを中心とした沖合漁業の基地として、ホタテやフカヒレなども多く水揚げされる、全国でも有数の賑わいを誇る港でも、本行町という画像を載せて主に漁船の停泊地や対岸には造船所が併設される。いわば漁業の流通のバックヤードにあたる地域です。

■本浜町エリアは、東日本大震災の地震の影響で、土地が約1メートル30センチ地盤沈下しました。当時見て取れたのは、住居があった部分は津波により溜まった水が抜けず、ではなく、海の中に埋没したという表現が正しく見えませんでした。溜まった様に見える水中には小魚が泳ぐ様子が見え、潮の満ち引きに合わせて潮位が変化し流入する海水もみてもれました。震災直後から津波による瓦礫の撤去や生存者捜索のために以前の区画とおぼしき道路の部分に約2メートルの盛土を砕石充填により構築されました。現在では、作業道以外の部分も更に2メートル近くかさ上げされ、行政の計画では、水産関係の企業を誘致して一大水産加工団地への運用を予定しているようです。水産加工団地の予定地に運つては、水道や下水電気などの基本的なインフラの布設する工事が進んでいました。数件すでに物流倉庫の外観をした工場の建築が進んでいるところもありました。

■カメラのレンズの焦点距離が左右の画像では違いますが、遠近感が一定ではないですが、上記画像は同じ地点から同じ方向を向いて撮影した画像です。左側の男性が写っている写真の左側外壁の無くなった建物の奥付が、かつて筆者の親類が住まうた所がありました。今は土地がかさ上げされ、建設業者の仮設事務所が立ち並び造成整備を進めているように見受けられます。復興事業として四年目に入ったということになりますが、この歩みが早いのか遅いのか、明治昭和という記録が明確に残っている近代においてもこの地は津波に幾度も見舞われ、復興しては、何十年かしてまた街が人が犠牲になる繰り返しの土地柄であります。人の意識も進歩して、海を生業にして生きてきたのだから、津波があろうと沿岸部に私たちは住まうんだ！という意気込みだけで戻って来る人もそうそう見当たらないと聞きます。行政ぐるみで街ぐるみで運用やリスクを回避する方法の議論なしでは結果にはたどりつけないでしょうし、方針を決めてもそれが最良であると自信を持つことも難しいかもしれません。

それでもある一定の方向にむかって、この地域で言えば住居の地域ではなく賛同してくれた企業による水産加工拠点としての運用にたどり着いたばかりであります。しかしもと水産加工会社がいづつもこの地にはありません。老舗の会社も名乗りをあげているかと思いましたが、被災前のこの地域の住民らが、仮設住宅や他府県への移住をしている事もあって労働力の確保ができません。誘致には参加しないで廃業を決めた会社も多いと聞いています。

「変化」



現在 (2015年5月)

水産加工団地として着々と工場の建設が進む

■奥付
閲覧ありがとうございます。セー
ルスプロモーションの一環としてこ
そのニュースレターというものだ
と思うのですが、建築に関わる有益な
情報も生活に直接関係ある情報も掲
載せず誠に申し訳ありません。今後
も筆者の琴線に触れた雑記という内
容での配信になるかと思いますが、
ひと項目でもご興味を惹かれた部分
があれば嬉しく思います。

2015年5月吉日



現在 (2015年5月)